

⑤国産シルクを使ったプロダクト

(ハンドウィーバー マグネティックポール)

合同会社 Handweaver Magnetic Pole(秩父市)

自社の持つコア技術・代表的な製品など

合同会社 Handweaver Magnetic Pole

私たちは近隣養蚕農家との協業により100%国産繭のみを使用しています。伝承された技術によってできあがった糸は撚りのない「無撚糸」100粒前後の繭を座繰り器と呼ばれる道具を使い一気にひきあげ1本の糸にします。撚りをかけず引き揃えただけの糸は練り上げるとふっくらとひろがります。そんな糸を経・緯に利用する秩父太織は独特な節となめらかな質感が特徴です。

秩父太織(ちちぶふとり)とは

江戸時代 幕府の衣冠束帯用に秩父絹(*根古屋絹)が採用され品質堅牢から《鬼秩父》《鬼太織》などと称され、秩父絹は全国に名を馳せていきます。同じ頃、養蚕製糸を営む農家が換金できない繭(くず繭・玉繭など)や糸(太糸・熨斗糸)を利用して野良着をつくり始めたことが、秩父太織の始まりといわれています。

大正初期(1912年以降)には秩父太織は廃れてしまいましたが、昭和41年(1966年)石塚工房(現・ちちぶふとり工房)創設者 石塚賢一氏により技術習得・道具などの収集を経て、秩父太織の技術と技法が復元されました。秩父太織は1996年 秩父市指定無形文化財に指定されました。

Magnetic Pole 生産シリーズ

FUTORI / 秩父太織技術を基本にした先染め布 KAIKO / *根古屋絹技術を基本とした後染め布



試作品の概要

Tamamayu series

玉繭とは2匹の蚕が共同で一つの繭を作ることをいいます。そんな玉繭のようにマグネティックポールが、さまざまなデザイナーや素材などとコラボレーションを行いながら、新しいシルク製品を生み出すプロダクトシリーズです。



Flower Vase

全ての制作工程を一つひとつ手作業で行う特徴を活かし、機械での製造は難しいシルク生地へ異素材を取り入れることに挑戦しました。

手織り機で生糸を織る際に、経糸には生糸を横糸にはワイヤーを入れて、シルク生地へと織り上げる。

シルクの繊細で柔らかい風合いを残しながら、シルク生地自体が自立できるようになることを利用したフラワーベースです。



染織協力 株式会社きぬのいえ

担当デザイナー

RYOSUKE AKAGI DESIGN

空間設計を軸に空間とプロダクトの双方の領域を横断して活動。

香十「香皿」デザインコンテスト2020 特別賞
東遊園地の座具制作コンペティション 最優秀賞

HP <https://ryosukeakagi.com>

問い合わせ先

合同会社 Handweaver Magnetic Pole

(ハンドウィーバー マグネティックポール)

担当 北村
MAIL handweaver@magneticpole.jp
HP <https://magneticpole.jp>